

要約書

本発明のペプチドは、式（１）： $H-A1-A2-A3-A4-A5-R$

（式中、

Hは、水素原子を示し、

A1は、アスパラギン酸、リジン、バリン、グルタミン酸、グリシン、
アスパラギン、またはチロシンの残基、

A2は、バリン、アスパラギン酸、トリプトファン、リジン、フェニルアラニン、イソロイシン、ロイシン、またはチロシンの残基、

A3は、リジン、バリン、アスパラギン酸、アルギニン、アラニン、またはトリプトファンの残基

A4は、アラニン、トリプトファン、グリシンの残基、

A5は、グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、スレオニン、メチオニン、アスパラギン、グルタミン、ヒスチジン、リジン、アルギニン、フェニルアラニン、トリプトファン、プロリン、またはチロシンの残基、

Rは、カルボキシル基由来のOHまたは酸アミド基由来の NH_2 である）
で表されるgp120に対して親和性を有するペプチドである。

上記ペプチドは、HIVの最外殻を構成するgp120分子に対して親和性を有しており、しかも安定性にも優れたペプチドである。